



図15.48 鱗状毛包性角化症(土肥)
[keratosis follicularis squamosa
(Dohi)]

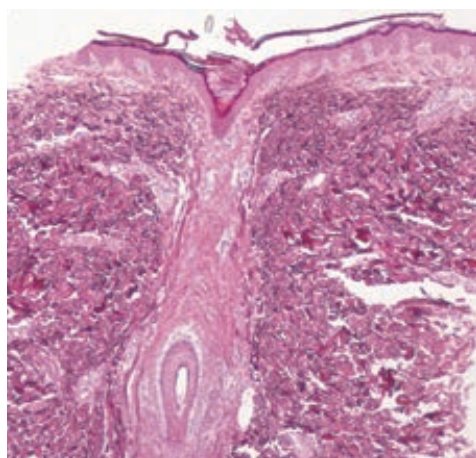


図 15.49 鱗状毛包性角化症（土肥）の病理組織像

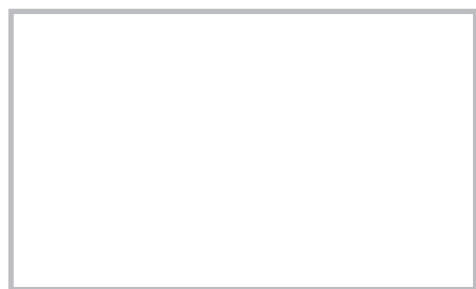


図 15.50 固定性扁豆状角化症 (hyperkeratosis
lenticularis perstans)

10. 連圈状秕糠疹（遠山） pityriasis circinata (Toyama)

同義語：pityriasis rotunda

腰部，腹部，殿部に生じる後天性角化症。皮疹は直径1～数cm，正円形あるいは楕円形で境界明瞭な角化性の淡紅色局面である。褐色～灰白色のちりめん皺様の落屑を伴う。内臓悪性腫瘍の合併例がある。

11. 固定性扁豆状角化症 hyperkeratosis lenticularis perstans

フレーゲル

同義語：Flegel 病

中高年の四肢，とくに足背や手背に好発。直径1～5mmまでの赤～茶褐色調の，鱗屑が固着した棘状の扁平隆起性丘疹で，左右対称性に発症する（図15.50）。原因不明で慢性に経過する。

12. 後天性魚鱗癬 acquired ichthyosis

Essence

- 悪性腫瘍（悪性リンパ腫など），サルコイドーシス，薬剤などに続発。
- 尋常性魚鱗癬に類似した臨床像をとるが，関節伸側のみでなく屈側も侵す。

症状・病理所見

尋常性魚鱗癬に類似した皮疹が生じる。関節伸側のみでなく屈側も侵す（図 15.51）。病理組織学的にも尋常性魚鱗癬に類似する。

病因

悪性腫瘍〔悪性リンパ腫（とくに Hodgkin リンパ腫^{ホジキン}）、白血病、内臓悪性腫瘍、Kaposi 肉腫^{カポジ}など〕、全身性疾患（サルコイドーシス、甲状腺機能低下症、ハンセン病、結核、SLE、AIDS など）、薬剤（ニコチン酸など）を背景として生じうる。

診断

皮膚症状や病理所見のみでは他の先天性魚鱗癬との鑑別は不可能。臨床経過と基礎疾患の検索が診断に重要となる。

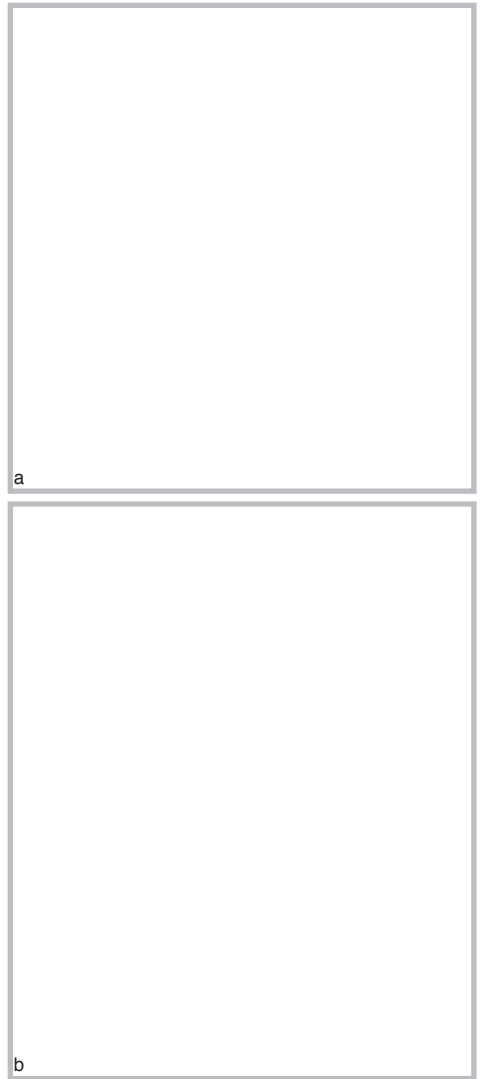


図 15.51 後天性魚鱗癬 (acquired ichthyosis)
a : Hodgkin リンパ腫に伴う。b : 菌状息肉症に伴う。